



学校運営協議会 だより

令和8年2月25日

学校運営協議会

会長

堀内 康雄

下大利小学校

校長

赤阪 勝

学校の教育目標

地域に主体的にかかわる子どもの育成

学校・家庭・地域の共育目標

地域・家庭・学校が協働した、
子どもの「思いやりの心」を育てる

校区づくり

わくわくする
体験活動

称賛の場

【三者でめざす子ども像】

- 地域や学校のきまりを
守ることができる子
- まわりの人に進んで
挨拶することができる子
- 地域の行事に進んで参画する子

1 説明

- (1) 2学期学校評価について
- (2) 3学期の子ども達の様子について
- (3) 来年度の学校経営構想について



(1) 2学期学校評価について… 1学期と比べて

「『わくわくする』学習や行動」の項目が上がってきている。どの子どもも「できる」「わかる」を感じる授業、自己有用感を感じる取組をしていく。

「優しい言葉かけ」の項目は概ね高い評価である。三者で自分の言葉の与える影響をさらに指導していく。

「GT (ゲストティーチャー) との体験活動」

の項目は、児童も教員も評価が上がっている。地域とのつながりを感じている。



(2) 3学期の子ども達の様子…

体育委員会・給食委員会・図書委員会等、委員会が企画して子ども達の主体的な活動が増え、成長を感じる場面が見られた。

GT (ゲストティーチャー) に来ていただき、楽器の体験活動や保健の学習などわくわくする学習があった。

SNSの使い方や言葉遣い、放課後の遊びでは、学校・家庭・地域で見守っていきたい。

(3) 来年度の学校経営構想について…

令和8年度教育目標

「自他ともに幸福に生きる子どもの育成」

本年度の重点目標及び経営の重点

《重点目標》 「自分も人も大切にチャレンジする子ども

《経営の重点》 「子どもに『委ねる』教師」



2 来年度の学校運営協議会テーマ、三者評価について・・・



『地域の中で、わくわくする体験活動』を通して、地域に主体的にかかわる子どもを育てていきたい。
『子どもに委ねること』子ども達が参画する場面を作っていきたい。



『三者評価』とは、来年度の学校経営に活かしていくために、学校評価にある取組の妥当性や有効性についてご意見をいただくものです。
お忙しいとは思いますがよろしくお願いいたします。

3 皆様から一言

子ども達がよい行いをしたときは、大人がまず、「ありがとう」と声をかけることが大切だと思う。子ども達の言葉よく聞き、大人も一緒に考えていくべきだと思う。

5年生の子ども達から、川の環境についてポスター掲示のお願いがあった。こんな風に、子どもたちの頑張りを公民館から発信できるとうれしい。

招待給食の時、子ども達から「読み聞かせのポイントを教えてください。」と質問があり、これをきっかけに、つながりができ、とてもうれしかった。子ども達の声をどう聞いていくといいか学んでいる。

中学生も見ていると、言葉の力の大切さを感じている。言葉の勉強は、アプリでもできるが、どんなニュアンスで相手が話しているのかわからない。だからこそ、経験と結び付けて言葉を獲得してほしいと思った。

来年度の学校経営の重点目標「人を大切にする子ども」の話を聞き、ランドセルクラブでも、多くの人との出会いを作り、その中で人を大切にすることを考えさせていきたい。

この1年間、協議会に参加し、学校の取り組みが分かり、皆さんとの話し合いや講話から学ぶものが多かった。下大利小は単級で難しいこともあるが、中学校に向けて学びを深めてほしい。



4 指導・助言

「筑紫女学園大学 准教授 立石 泰之先生」

- (1) 子ども達がGT（ゲストティーチャー）との学習のよさを感じ取っていることはとてもいい。ぜひ、保護者の皆さんと共有してほしい。
- (2) 学校経営の重点目標「人を大切にする子ども」について、「人を大切にする」とはどういうことか、自分を振り返り、子ども達と一緒に考えるきっかけにしてほしい。
- (3) 話し合いを成立させるには、「言葉を大切にしたい」と子どもたちが思う支持的風土が大切。その上で、①なぜそうするのか行動の意味を伝える②考える余白を与える③やらせてみて考えさせることが大切ではないでしょうか。



「一年間、お世話になりました。ありがとうございました。」